

山と田との巡りを祝う



神社は山と奥、船形山



神社は山



山頂、船形山神社



中腹、お馬石(船形山)

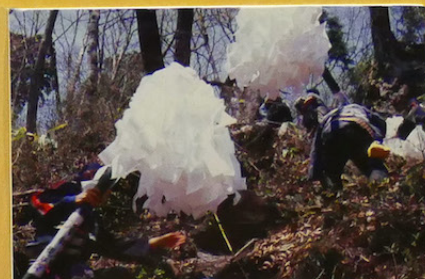


山の下、鳥居

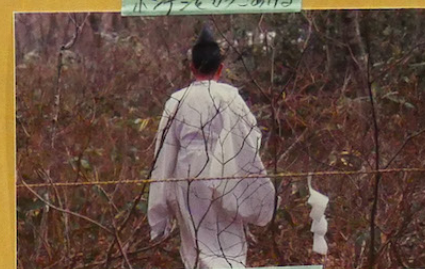


さすかつたポンテンを田の水口に供える。
船形山神社の祭りで争われたポンテンは小さな
ポンテンに小割りし、田植えのとき田の水口
にさして農作を祈る。
* 祭りに使われるポンテンは、田植えのとき田の水口にさして農作を祈る。

升沢集落から船形山登山口まで登る道の右手
に小山があり、その頂上に船形山神社の社殿が
建つ。
この神は稲作の神さま「稲神」で、いまは田
植え前の五月一日に祭礼がある。信者たちは
大勢のポンテンを担いで参詣奉納し、ベクトウ
(別名)と呼ばれる神の守り役が、秘密の場所に
隠されていたご神体を山中からお迎えし、「御
開帳」として参詣者にその姿を披露する。
その後、ポンテンパイといひ、集まった男
たちがポンテンをいっしょに、勝ちつたものが
そのポンテンをいっただいて帰る。さすかつた
ポンテンは小割りされて小さなポンテンに作り
直され、その地域の各家に配られる。田植え
前にそのポンテンを田の水口にさして、米の豊
作を祈願するのである。
祭りに、船の古田地区、大和町の稲作地
帯のほか、戦前までは郡域をこえ、栗原郡・桃
生郡・宮城郡・名取郡・黒川郡などからも多く
の参詣者が集まり、「信徒二千人」とも伝えら
れる。ポンテンパイがあまりに激しく、ポン
テンを持ったまま崖を転げ落ちたこともあった
という。
ご神体「お姿」を入れるオマス(厨子)は、
かつて井沢の早坂林右衛門家で身を清めた当主
によって作られていた。また戦後、しばらく
までは、祭りの参加者たちは麓からの山道を
歩いて参詣したため、井沢の民家に参詣の前夜
数日間宿泊した。大きな屋敷を構える田家で
宿をひきうけ、多いときは三百人もの客を
泊め、夜はみな座敷に集まり、お姿を拝見し、
お姿を拝見した後は、お姿を拝見したと
伝えられる。井沢の各家では「船形山」の焼印
を押したへっぺを大量に作り、店を出して売った。
参詣者たちはそれを買って願い求めたという。



ポンテンをカッパあけ



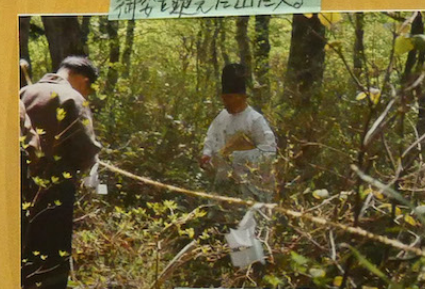
御姿も迎えて山に入る



お姿(御神体)



ポンテンを小割りにする



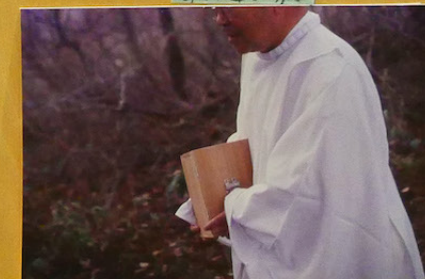
御姿も迎えて山に入る



ポンテンを持ち帰る



ポンテンを争う(ポンテンパイ)



御開帳

